

書かれている。

当然のことながら、江戸期の種痘の担い手はそれぞれの地域の町医・在村医であり、また、拙論で明らかにしたように、少なくとも明治初期において彼らが引き続きそれぞれの地域における種痘で大きな役割を担っていた。以上のことから、両先生の主張を言い換えれば、明治新政府によって

西洋諸国から医療システムが輸入される前から、すでに江戸期の医師たちは、ネットワークを構築し、医療情報・医療資源を共有しており、さらにそれは、明治初期においても受け継がれ、それが日本の近代的な医療システムへの前準備となった、ということではないだろうか。

例会案内

日本医史学会 1月例会

令和5年1月28日(土)
オンライン開催

日本医史学会編『医学史事典』刊行記念1月例会

挨拶 小曾戸洋(『医学史事典』副編集長)

第I部 世界の医学(1):古代から近世まで

矢口直英(『医学史事典』第I部 執筆者代表)

第II部 世界の医学(2):近現代

山内一信(『医学史事典』第II部 執筆者代表)

第III部 日本の医学(1):古代から近世まで

真柳 誠・青木歳幸

(『医学史事典』第III部 執筆者代表)

第IV部 日本の医学(2):近現代

渡部幹夫(『医学史事典』第IV部 執筆者代表)

第V部 社会の中の医学

永島 剛(『医学史事典』第V部 執筆者代表)

総括 坂井建雄(『医学史事典』編集長)

日本医史学会 3月例会

令和5年3月25日(土)
オンライン開催

1. 「華岡流麻酔法の終焉と吸入麻酔の普及にお雇

い外国人医師が果たした役割」
牧野 洋(浜松医科大学附属病院
麻酔科蘇生科 講師)

明治維新の頃、華岡流の麻酔法が衰退し、新しく吸入麻酔薬による全身麻酔法が普及し

た。そのことにお雇い外国人医師達が果たした貢献を紹介する。

2. 「(未定)」 吉川澄美(東京都)

日本医史学会 4月例会

令和5年4月22日(土)
オンライン開催

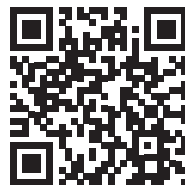
1. 「レブラと奇跡 脱神話化と脱医学化に向けて」
堀 忠(関西学院大学大学院
神学研究科研究員)

表題拙著(新教出版)の内容に沿って、古代キリスト教文献におけるレブラと奇跡の概念史(成立、展開から分岐まで)を追跡する。

2. 第28回富士川游学術奨励賞 受賞記念講演
「(未定)」 松村紀明(帝京平成大学)

以上は変更の可能性がありますので、必ず開催直前に医史学会のサイトをご確認ください。また、5月以降についても確定し次第、同サイトでご案内いたします。

<http://jsmh.umin.jp/events.html>



しばらくはZoomを用いたオンライン開催を継続いたします。参加方法については、日本医史学会事務局(jsmh@juntendo.ac.jp)にお問い合わせ

ください。

また、本例会でのご発表を随時募集しております。ご希望の方は、演題・希望する月を明記の上

事務局（同前）までご連絡下さい。原則として発表者は会員に限ります。

例会記録

第59回日本医史学会神奈川地方会 秋季例会・ 日本医史学会 合同例会

令和4年9月17日（土）
鶴見大学会館

I 依頼講演

「西郷隆盛と上野戦争における戦傷兵横浜輸送の算段」 岩下哲典（東洋大学文学部 教授）

II 特別講演

1. 「緒方家と森鷗外」

石井元章（大阪芸術大学大学院 教授）

2. 「緒方家に迎えられたエウジェニア＝ジョコンダ＝豊の生涯」

緒方洪貴（兵庫医科大学 麻酔科学・疼痛制御科学）

エクスカージョン：

「曹洞宗大本山總持寺 諸堂拝観」

日本医史学会 10月例会

令和4年10月22日（土）
オンライン開催

1. 「研医会図書館の蔵書紹介」

安部郁子（公益財団法人研医会）

2. 「郡上医学の夢～美濃郡上藩の医師修業，同地方の江戸期医事」

森永正文（成医会 もりなが耳鼻咽喉科）

書 評

代表編者：小曾戸洋，共同編者：町泉寿郎

『杏雨書屋所蔵 医聖像集』

杏雨書屋は、日本に実在した医家の肖像集『杏雨書屋所蔵医家肖像集 初篇・二篇』2冊をこれまで刊行している。いずれも重厚な本だが、今回刊行された本書も、紫色のベルベットの装丁、271点（406ページ）の図版すべてをカラー収録、各作品の賛および印文もすべて翻刻解説された、実に豪華で充実した図像集である。

医聖とは、人々を病苦から救う、あるいは病苦から守ってくれると期待される、神格化された人

や動物という。本書の医聖中、最も多く描かれるのは、神農像である。絵画として単独で、あるいは三人（黄帝、伏羲らと共に）、二人、四人の中に、また彫像、印籠、刀の鏢にと様々な形で製作されている。

神農は、現代でも「神農祭」が行われるように、医薬の神として日本では漢方医や薬剤業者が祀り、古い医家には神農像のあるところも少なくなかった。本書にも二百点近い神農像が収録されて